南アメリカ・オセアニア
州

名前

問1　1960年頃のオーストラリアの統計では、かつての宗主国であるイギリスへの輸出割合が約20%を超えて最大でしたが、近年ではアジア諸国との結びつきが強まっています。近年の統計において、オーストラリアにとって最大の輸出相手国となっている国として適切なものを選びなさい。
（2022年 茨城県公立入試 類似）

1. 中国
2. イギリス
3. 日本
4. アメリカ合衆国

問2　2020年の経済統計において、国内総生産（GDP）の総額が約1兆4000億ドル、1人あたりの国内総生産が約6800ドルを記録したブラジルの経済状況について説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2024年 富山県公立入試 類似）

1. 1人あたりの国内総生産が非常に高く、欧米の先進国と同等の経済水準に達している。
2. 国内総生産の総額は大きいものの、1人あたりの国内総生産はアフリカ諸国の平均を下回っている。
3. 南アメリカでは中程度の経済規模であり、隣国のアルゼンチンやチリよりも国内総生産の総額は低い。
4. 南アメリカ最大の経済規模を持ち、1人あたりの国内総生産はインドやコートジボワールを上回る水準にある。

問3　1930年代、世界恐慌による経済的な混乱から立ち直るため、イギリスはオーストラリアなどの自治領や植民地を囲い込み、域内での貿易を有利に進める政策を導入しました。このように、本国と植民地の間で関税を優遇し、域外に対しては高い関税を課した排他的な経済体制を何と呼びますか。（2017年 静岡県公立入試 類似）

1. 持続可能な開発目標
2. ブロック経済
3. 自由貿易協定
4. 経済特区

問4　カナダ、ブラジル、アルゼンチンの3カ国の農業統計を比較した際、アルゼンチンに見られる特徴として、広大な草原地帯である「パンパ」の存在が大きく影響しています。この地域に関する記述として正しいものを選びなさい。（2025年 兵庫県公立入試 類似）

1. ブラジル高原の赤土（テラローシャ）を利用し、近現代に入ってから大豆の生産量が急増した地域である。
2. 寒冷な気候のため農作物の栽培には適さないが、地下資源が豊富で鉱工業が中心となっている。
3. 温帯の広大な草原を活用し、古くから小麦の栽培や牛肉の生産が盛んで、世界への輸出拠点となっている。
4. アマゾン川流域の熱帯雨林（セルバ）を切り拓いて作られた、世界最大のコーヒー豆栽培地である。

問5　オーストラリアの地理的・歴史的特徴を述べた文として、正しい組み合わせはどれですか。（2026年 福島県公立入試 類似）

1. 人口密度が非常に高く、労働力を確保するためにかつてはポルトガルからの移民を積極的に受け入れていた。
2. 石炭や鉄鉱石などの資源は乏しいが、広大な国土を利用した小麦の生産と輸出で経済を支えている。
3. 国土の大部分が熱帯雨林に覆われており、人口は沿岸部ではなく内陸の鉱山都市に集中している。
4. 人口密度が1平方キロメートルあたり約3人と非常に低く、歴史的な背景から英語が公用語となっている。

問6　赤道付近の低地は一年中暑い熱帯の気候となりますが、アンデス山脈にある都市キトのように、標高が高い地域で見られる一年中春のように過ごしやすい気候を何といいますか。（2022年 青森県公立入試 類似）

1. 西岸海洋性気候
2. 高山気候
3. 地中海性気候
4. 熱帯雨林気候

問7　オーストラリアの農業と土地利用の特色について、背景となる自然環境や産業構造と関連付けて説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2019年 埼玉県公立入試 類似）

1. 広大な乾燥・半乾燥地域が広がっているため、農地の大部分を牧場・牧草地として利用し、牛や羊の大規模な放牧を行っている。
2. 大陸全体に肥沃な土壌が広がっているため、灌漑施設に頼ることなく、国土の全域で小麦を中心とした大規模な畑作を行っている。
3. 国土の大部分が熱帯雨林に覆われているため、世界の主要国と比較して農地面積そのものが極めて狭い。
4. 全域が温暖多雨な気候であるため、農地の大部分を耕地・樹園地として利用し、アジア諸国のような集約的な稲作を行っている。

問8　南アメリカのブラジルとオセアニアのオーストラリアに共通する、資源と産業の関わりについて述べた文として正しいものを次の中から選びなさい。（2015年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 世界最大の原油産出量を誇り、石油化学工業が国の経済を支える最大の産業となっている。
2. どちらの国も熱帯雨林における焼畑農業が産業の中心となっており、資源輸出はわずかである。
3. 世界的な鉄鉱石の産出国であり、重工業を支える原料の供給地として重要な役割を果たしている。
4. イギリスからの移民によって開拓された歴史を持ち、国土の全域に人口が均等に分布している。

問9　コーヒーの栽培に適した自然環境について説明した記述として、最も適切なものはどれですか。（2017年 岩手県公立入試 類似）

1. 年平均気温が25度以上、年降水量が4000mmを超える常に湿潤な熱帯環境
2. 年平均気温が16〜22度、年降水量が1000〜3000mm程度で、収穫期に乾燥している環境
3. 年平均気温が16〜22度、年降水量が500mm程度で、収穫期に雨が多い環境
4. 年平均気温が10度前後、年降水量が500mm未満の冷涼で乾燥した環境

問10　ブラジルでは、さとうきびを原料としたバイオエタノール（バイオ燃料）が自動車用燃料として広く普及しています。この燃料が、化石燃料と比べて地球温暖化の防止に役立つとされる理由として、最も適切な説明はどれですか。（2025年 埼玉県公立入試 類似）

1. 地下から採掘する資源ではないため、燃焼時に発生する有害なガスの量が化石燃料の半分以下に抑えられるから
2. 燃焼させた際に二酸化炭素を全く排出せず、水蒸気のみを排出するクリーンなエネルギーであるから
3. 原料となる植物が成長過程で光合成を行い、大気中の二酸化炭素を吸収するため、燃焼しても全体での排出量が増えないとされるから
4. さとうきびから作られるアルコールには、大気中の二酸化炭素を分解して酸素に変える特殊な成分が含まれているから

問11　オセアニア地域に位置するオーストラリアにおいて、イギリス植民地時代の面影を残しながらも、近年アジアからの移民が急増し、社会の多様性が進んでいる背景を説明した文として、適切なものを選びなさい。（2026年 埼玉県公立入試 類似）

1. イギリスとの軍事的な協力関係を維持するために、英語を公用語とする人々に限定して移民を認めてきたため。
2. 国内の先住民との対立を解消するために、ヨーロッパ以外からの移民を禁止する白豪主義を徹底したため。
3. 広大な国土を開発するために、周辺諸国との関わりを断ち、自国の伝統文化のみを保護する政策に切り替えたため。
4. アジア諸国との経済的結びつきを重視し、異なる文化を持つ人々が対等な関係で共存する多文化社会へと転換したため。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 中国	オーストラリアはかつてイギリスを主要な貿易相手としていましたが、地理的に近いアジア諸国の経済成長に伴い、貿易構造が大きく変化しました。2016年のデータでは輸出全体の約32.9%を中国が占めており、1960年に最大だったイギリス（約21.5%）に代わって、現在は中国が最大の輸出相手国となっています。
問2	答え 4 南アメリカ最大の経済規模を持ち、1人あたりの国内総生産はインドやコートジボワールを上回る水準にある。	ブラジルは南アメリカで突出したGDP総額を誇る経済大国です。統計によれば、1人あたりの国内総生産についても、同じBRICSの一員であるインドや、アフリカの発展途上国であるコートジボワールといった国々と比較して高い水準を維持しており、新興国の中でも安定した経済基盤を築いていることがわかります。
問3	答え 2 ブロック経済	1929年に発生した世界恐慌への対策として、広大な植民地を持つイギリスやフランスなどは、自国と植民地の間で関税を低く抑え、他国の製品を排除する経済圏（ブロック経済）を形成しました。当時、オーストラリアはイギリスの自治領としてこの体制に組み込まれており、イギリスとの政治・経済的な主従関係が非常に強い時期でした。
問4	答え 3 温帯の広大な草原を活用し、古くから小麦の栽培や牛肉の生産が盛んで、世界への輸出拠点となっている。	アルゼンチンの農業を象徴するパンパは、カナダやブラジルといった他の農業大国と比較しても、温帯気候における大規模な穀物栽培と牧畜の両立が際立った特徴です。ブラジルが大豆（特に熱帯地域での拡大）やコーヒーに強みを持つのに対し、アルゼンチンはパンパの肥沃な土地を活かした小麦と、冷凍船の発明以降に飛躍的に輸出が伸びた牛肉の生産で知られています。選択肢にある「セルバ」はアマゾン川流域の熱帯雨林を指す用語であり、パンパとは性質が異なります。
問5	答え 4 人口密度が1平方キロメートルあたり約3人と非常に低く、歴史的な背景から英語が公用語となっている。	オーストラリアはかつてイギリスの植民地であった歴史から、現在も英語が公用語となっています。国土の多くは乾燥した砂漠や半乾燥地帯が占めており、人が住める地域が限られているため、広大な面積に対して人口が少なく、人口密度は世界的に見ても非常に低い水準にあります。また、資源大国として知られ、特に日本にとっては鉄鉱石や石炭の主要な輸入先となっています。
問6	答え 2 高山気候	標高が高くなるにつれて気温が下がる性質により、低緯度の地域であっても高地では涼しい気候が見られます。これを高山気候と呼びます。南アメリカのアンデス山脈やメキシコ高原、アフリカのエチオピア高原などで見られる特徴的な気候区分です。
問7	答え 1 広大な乾燥・半乾燥地域が広がっているため、農地の大部分を牧場・牧草地として利用し、牛や羊の大規模な放牧を行っている。	オーストラリアの内陸部から西側にかけては、降水量が少ない乾燥・半乾燥地域が大きな面積を占めています。このような環境下では、集約的な耕作よりも、広大な土地を移動しながら飼育する牧畜が適しています。その結果、統計上でも農地面積における牧場・牧草地の割合が非常に高くなっており、羊毛や牛肉は同国の主要な輸出項目となっています。
問8	答え 3 世界的な鉄鉱石の産出国であり、重工業を支える原料の供給地として重要な役割を果たしている。	ブラジルとオーストラリアは、ともに世界トップクラスの鉄鉱石生産量を誇ります。これらの国々から輸出される鉄鉱石は、日本などの製鉄所で鋼鉄へと加工され、自動車や建築物の材料となります。選択肢のうち、イギリスからの移民の影響が強いのは主にオーストラリアであり、焼畑農業が環境問題として取り上げられることが多いのは主にブラジルです。また、両国とも人口は沿岸部などの特定の地域に集中する傾向があり、均等に分布しているわけではありません。
問9	答え 2 年平均気温が16～22度、年降水量が1000～3000mm程度で、収穫期に乾燥している環境	コーヒーの栽培には、年平均気温が16～22度、年降水量が1000～3000mm程度という温暖で一定の雨量がある条件が必要です。特に、品質の良い豆を収穫するためには、収穫期に乾燥していることが好ましいとされています。これに対し、より冷涼で乾燥した環境を好むのは小麦などの作物です。
問10	答え 3 原料となる植物が成長過程で光合成を行い、大気中の二酸化炭素を吸収するため、燃焼しても全体での排出量が増えないとされるから	バイオエタノールは、燃焼時に二酸化炭素を排出しますが、その二酸化炭素は原料となる植物（さとうきびなど）が成長する際に吸収したものであるため、大気全体で見れば二酸化炭素の量は増えないという「カーボンニュートラル」の考えに基づいています。これにより、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出抑制に貢献するエネルギーとして期待されています。
問11	答え 4 アジア諸国との経済的結びつきを重視し、異なる文化を持つ人々が対等な関係で共存する多文化社会へと転換したため。	オーストラリアは地理的にアジアに近く、石炭や鉄鉱石などの資源輸出を通じてアジア諸国との経済的なつながりが非常に強くなっています。こうした背景から、従来のイギリス中心の考え方を改め、アジアからの移民を労働力や社会の構成員として受け入れるようになりました。その結果、互いの文化を尊重し合う「多文化社会」の考え方が定着しました。